

創立120周年の関西大学とともに歩んできた 関西大学図書館の年譜

船 越 一 英

◆目次◆

はじめに

図書館の年譜…………… 77

図書館の風景…………… 89

図書館の表札…………… 91

図書館規程の変遷…………… 92

文庫・特別コレクション形成の経緯…………… 93

図書館の蔵書印…………… 93

図書館のカード目録と目録室…………… 94

図書館の冊子目録・出版図書・案内パンフレット…………… 94

展示のあゆみ—主な記念展示の図録・目録・ポスターなど… 96

電子展示…………… 97

図書館に掲げられていた書画…………… 98

あとがき



旧千里山本館1階の入口と廊下にあった「知」のシンボルマーク「葡萄」



イラストは、『関西大学通信』第145号(昭和60年刊)に掲載していたもの

はじめに

—年譜の増補改訂について—

関西大学は昨年11月、創立120周年を迎えた。この年譜は、それを機会に作成したものである。

本学の図書館において初めて年譜が編まれたのは昭和52年であった。同年12月に刊行した『関西大学図書館目録体系の現状およびその変遷』に付している。昭和4年11月から52年10月までの蔵書目録の変遷とその関連事項をまとめた年表であった。

昭和60年総合図書館が創設され、関西大学図書館報『籍苑』第20号を「総合図書館開館記念特集」として刊行した。そのなかに、もとの年表を再編成して「関西大学図書館略年譜」を掲載している。その後、『關西大學百年史』が刊行されたので、それを重要な参考にして冒頭の「目録の変遷」や『關西大學學報』などを用いて調査をしておしている。補記および修正を施して、小誌『図書館フォーラム』の創刊号に「関西大学図書館略年譜」(増補修正版)として掲載した。

今回は、その略年譜に増補と追録を施し、折々の関西大学の主なトピックスやその時代の出来ごととも折りまぜて、また、記録のために、収集していた写真や資料を可能な限り添付した。創立120周年の関西大学とともに歩んできた図書館の足跡を記した年譜の増補改訂版である。

今まで図書館の刊行物に掲載した写真等をこの年譜にも再掲しているものがある。提供いただきご協力をいただいたかたがたに謝意を表したい。なお、掲出した諸氏の敬称は省略させていただいている。

図書館の年譜

【注】■は本学の主なトピックスを、●は国内外の主な出来ごとを記す。▲は図書館の出来ごとの区切を表しています。年譜中の写真番号により、後掲の写真を参照ください。

- 明治19年(1886) 3月 ●帝国大学令公布
- 11月 ■関西法律学校開校(願宗寺:大阪・西区京町堀)
- 12月 ■東区淡路町に校舎を移転

- 20 (1887) 4月 ■興正寺に移転(北区河内町)
12月 ■『関西法律学校講義録』を發行
- 22 (1889) この頃の「事務章程」に書籍及び同目録の管理責任者を定めてあり、校舎として使った興正寺の一隅に
図書室的なもののあったことがうかがえる
2月 ●大日本帝国憲法發布
4月 ■司法省顧問ボアソナード博士が来学
- 24 (1891) 5月 ●大津事件(■本学創立の事にあずかった兒島惟謙が大審院長になった直後のこと)
- 29 (1896) 4月 ●近代オリンピックの第1回がアテネで開催
- 32 (1899) ●はがき郵便料金1銭5厘
8月 ●私立学校令公布
9月 ●図書館令(勅令第429号)公布
- 33 (1900) ●丸善が米国からタイプライター「ウエリントンNo. 2」を輸入(1台135円と広告)
- 34 (1901) 7月 ■私立関西法律学校と改称
- 36 (1903) 3月 ●専門学校令公布
4月 ●大阪府立図書館開館
12月 ■江戸堀校舎竣工移転(西区江戸堀北通) ●ライト兄弟初飛行に成功
- 37 (1904) 1月 ■専門学校令による専門学校として認可される ▲江戸堀校舎に書籍室を置く
2月 ●日露戦争勃発
- 38 (1905) 明治38年度の図書室書籍費120円
1月 ■私立関西大学と改称、大学科、大学予科及び専門科を設置
- 39 (1906) 12月 ■福島学舎竣工移転(北区上福島北2丁目)
- 40 (1907) 3月 ●義務教育6年制、小学尋常科6年・高等科2年となる
10月 ●日本文庫協会(現日本図書館協会)が『図書館雑誌』を創刊
- 43 (1910) 5月 ●ハレー彗星地球最接近
- 44 (1911) 1月 ●白瀬中尉の南極探検隊、南極平原に日章旗立てる
- 大正元年(1912) 8月 福島学舎増築工事が竣工し、同学舎に図書室を置く
- 2 (1913) 4月 ■関西甲種商業学校開校
- 3 (1914) 7月 福島学舎に図書庫竣工(その一室に閲覧室を置いた2階建洋風館で、本学初の独立図書館【写真1~3】)
●第1次世界大戦勃発
- 5 (1916) 12月 ■大学創立30周年記念式典を挙行
- 7 (1918) 8月 ●米騒動
12月 ●大学令公布
- 9 (1920) 1月 ●国際連盟発足
3月 ■財団法人に改組し、私立の二字を削除し校名を関西大学と改称
- 10 (1921) 10月 ■岩崎卯一、初の専任教授に就任
12月 ■大学創立35周年記念祝賀式典を挙行
- 11 (1922) 4月 ■千里山学舎(予科校舎)竣工 ▲予科校舎に図書室を置く
5月 ■千里山学舎に大学部、大学予科を移転
6月 ■大学令による大学として認可され、大学院を附置
9月 ■学歌制定(服部嘉香作詞・山田耕筰作曲)
- 12 (1923) 9月 ●関東大震災
- 13 (1924) 「関西大学図書館規則」制定【写真25】
- 14 (1925) 4月 ●治安維持法公布
5月 ●普通選挙法公布
- 15 (1926) 11月 千里山図書館の設計案成る
- 昭和2年(1927) 3月 大学部の本館に読書室および書庫を設ける
6月 千里山図書館起工式【建設中の写真4】
- 3 (1928) 2月 ●わが国初の普通選挙が実施される
4月 千里山図書館竣工【写真5】 ▲蔵書15,821冊

- 4 (1929) 2月 ●森清編『日本十進分類法』刊
 3月 「図書館事務大要」と「図書館管理及其分掌」が定められ、司書部と事務部が置かれる
 4月 ■大学院を開設
 9月 ■天六学舎竣工（専門部・関西甲種商業学校・第二商業学校が福島学舎から移転）
 10月 ●世界恐慌始まる
 11月 天六分館目録作成開始（登録番号1番より） ▲「関西大学図書館規程」制定（平成13年制定の同名規程とは別のもの）
 12月 天六学舎に図書館を設置（地階）
- 7 (1932) 5月 ■第10回ロサンゼルスオリンピック大会にて、大島鎌吉が三段跳びで3位入賞、本学初のメダリストとなる
- 10 (1935) 3月 天六学舎本部増築工事が竣工し、天六学舎図書館は地階より4階に移転【写真13・14・38】
 11月 千里山本館目録作成開始（登録番号「1」番より）【写真28・29・36】
- 11 (1936) 2月 ●2.26事件
 4月 新予科校舎に図書室を設置
 5月 ■大学創立50周年記念行事を開催、『関西大学創立五十年史』を刊行
- 13 (1938) 5月 ●全国私立大学図書館協議会（のち、私立大学図書館協会）創立
 9月 初代図書館長・岩崎卯一就任
- 14 (1939) 9月 ●第2次世界大戦勃発
- 15 (1940) 「小畑文庫（別置番号：LO）」別置
- 16 (1941) 「興亜文庫（H2）」別置
- 18 (1943) 「南方関係資料（H3）」別置
 12月 ●学徒出陣開始
- 19 (1944) 4月 ■関西工業専門学校（第1部・第2部）を開校
- 20 (1945) 6月 ■大学創立60周年記念式を挙行
 8月 ●広島、長崎に原爆投下、ポツダム宣言受諾
- 21 (1946) 7月 ●私立大学図書館協会第7回総会を戦火を免れた高野山大学で開催、15の大学が集り協会は再出発する
 11月 ●日本国憲法公布
- 22 (1947) 3月 蔵書64,104冊 ●教育基本法、学校教育法公布
 4月 ■関西大学教育後援会が発足 ▲翌23年から同後援会より毎年学生文庫用図書を寄贈
 5月 ■岩崎卯一学長「関大ルネッサンス」を説く
 6月 第2代図書館長・森川太郎就任
 7月 「細江文庫（LH）」設置
- 23 (1948) 1月 ●大学設置委員会設置
 4月 ■学制改革により新制大学に移行 法、経済、文、商の4学部（各第1、2部）を設置 ▲岩崎学長は「関大ルネッサンス」につづき、「関大アカデミア」を提唱し、同年6月に図書館は「読書と教養」講演会・図書展覧会を開催している（講師は、岩崎学長、文学部長、図書館長、図書館の課長など） ●国立国会図書館開館
 11月 「学生文庫」創設
- 24 (1949) 1月 千里山図書館に開架式図書室を開設
 2月 イギリスの詩人エドモンド・ブランデンが来館、『Books』揮毫し献呈される【写真66】
 3月 「生田文庫（LI）」設置 ▲「関西大学図書館学講習所規則」制定
 4月 関西大学図書館学講習所を設置（天六学舎にて。京都大学においても、同月「図書館学校」を開講）【写真26】
 11月 ●湯川秀樹博士がノーベル物理学賞を受賞
 12月 ●私立学校法公布
- 25 (1950) 本学の図書目録の記述にALA Cataloging rulesを採用
 4月 ●「図書館法」公布 ■新制大学院を開設 ■短期大学部を設置（～昭和34年3月）



初代館長
岩崎 卯一



第2代館長
森川 太郎



【關西大學學報】第227・228合併号（昭和23年7月）

- 5月 開架室用図書に別置記号「S」を付与
- 12月 新価格体系移行に伴い、図書の再評価額を、和漢書200円、洋図書700円とする
- 26 (1951) 千里山本館の旧閲覧室を回復（大戦中閉室していた）
- 3月 ■学校法人関西大学に改組 ▲「泊園文庫」「極東国際軍事裁判資料」を東西学術研究所に設置（「泊園文庫」は昭和39年図書館に移管。「裁判資料」は昭和47年に移管） ▲蔵書97,432冊
- 4月 ■東西学術研究所を開設
- 12月 「潁原文庫」を設置（一般図書と混排する）
- 27 (1952) 日本目録規則1952年版採用
- 28 (1953) 基督教研究部の木下清より寄贈された聖書等キリスト教関係蔵書（同氏岳父旧蔵）ベースに「聖書コレクション」を創設する
- 2月 ●NHKテレビ本放送開始（民間テレビ放送は8月開始）
- 4月 NDCを2版から6版に変更
- 7月 第3代図書館長・大小島真二就任
- 9月 千里山本館で夜間開館を始める ▲天六分館の夜間開館を復活
- 10月 貴重書に別置記号「C」を付与
- 11月 「附属図書館組織規程」制定
- 12月 「関西大学図書館閲覧及び帯出規程」制定
- 29 (1954) 3月 蔵書142,512冊
- 4月 開架式学生文庫を地階元ゼミ室に移す（36席3,500冊）
- 5月 私立大学図書館協会総会（第15回）が本学にて開催、協会創立15周年記念式典も挙行政され、岩崎学長が祝辞を述べる ●日本図書館協会は「図書館の自由に関する宣言」を採択（昭和54年に、「1979年改訂」を採択している）
- 30 (1955) 4月 「個人研究用図書規程」制定
- 5月 「五弓雪窓文庫（LG2）」設置
- 8月 ●第1回原水爆禁止世界大会が広島で開催
- 10月 千里山図書館増築工事竣工
- 11月 円型新館2階に開架閲覧室を移す【写真9・12】 ▲「関西大学図書館図書複写規程」制定（昭和47年、同名の規程制定により廃止） ■大学創立70周年記念式典を挙行政
- 12月 図書館学講習所終了式（第5回有終）
- 31 (1956) 千里山本館にマイクロフィルム撮影機設置（～昭和53年）
- 3月 蔵書183,921冊
- 5月 ●私立大学図書館協会は「私立大学図書館改善要項」を制定（国立大学、公立大学もそれぞれ制定される）
- 6月 「関西大学図書委員会規程」制定
- 7月 図書館第1分室開設（第2学舎）
- 12月 ●国際連合に加盟
- 32 (1957) 3月 蔵書193,658冊 ■友の像除幕式 ▲友の像はもとは千里山本館前にあったが、昭和40年旧学生部横誠之館1号館庭に移されたのち、現在は総合図書館前にある
- 9月 ●国産ロケット打上げ成功（10月にソ連が、月に世界初の人工衛星スプートニク1号打上げ成功）
- 10月 図書館シリーズ刊行始まる（第一輯『関西大学雑誌目録和文篇』） ▲「岩崎美隆文庫（LI2）」設置
- 12月 ■『関西大学七十年史』を刊行
- 33 (1958) 4月 ■工学部を設置 ▲登録番号「工1」番開始 ■経済・政治研究所を開設
- 9月 『関西大学論文目録』刊行
- 12月 『細江文庫目録』刊行
- 34 (1959) 1月 ●メートル法施行
- 3月 『関西大学雑誌目録欧文篇』刊行
- 9月 「吉田文庫（LY）」設置
- 35 (1960) 3月 『参考図書目録欧文篇』刊行
- 6月 「本山文庫（LM）」設置



第3代館長
大小島 真二



マイクロフィルム撮影機（定置式CA7型）

- 7月 天六分館閲覧室増築工事竣工
- 36 (1961) LC記述目録規則採用
- 3月 蔵書326,941冊
- 6月 「岩崎文庫 (LI3)」設置
- 9月 「図書館長の任命及び任期に関する規程」制定
- 10月 『大阪関係資料目録』刊行
- 11月 「宮島文庫 (ELM)」設置 ▲日本文学の外国語訳図書の展示と講演会の開催 (講師ドナルド・キーン)
- 37 (1962) 1月 「玄武洞文庫 (LG)」設置
- 4月 新規受入図書からNDC7版に変更 ▲工学部分室開設 (第4学舎)
- 8月 ■堀江謙一 (関大一高OB) がヨットで太平洋横断
- 38 (1963) 9月 『生田文庫・顕原文庫目録』刊行
- 10月 第4代図書館長・堀正人就任
- 11月 専門図書館建設に着手
- 39 (1964) 1月 ■工業技術研究所を開設
- 4月 「泊園文庫 (LH2)」が東西学術研究所から図書館へ移管される
- 9月 専門図書館【写真8・10・11】が竣工・開館して、第1分室及び工学部分室を吸収
- 10月 ●東海道新幹線開通 ●第18回オリンピック東京大会開催
- 40 (1965) 日本目録規則1965年版採用 ▲専門図書館に本学初のゼロックス複写機が置かれる (大阪府内の大学に置かれた2台のうちの1台)
- 7月 ●名神高速道路全通
- 11月 ■大学創立80周年記念式典を挙行
- 41 (1966) 4月 蔵書467,303冊
- 9月 『雑誌目録欧文篇第2版 (総記・人文・社会科学)』刊行
- 42 (1967) 3月 千里山本館書庫を増築 ▲蔵書417,795冊
- 4月 ■社会学部を設置
- 7月 ■下釜・松原ダム総合学術調査団現地調査を開始 (のち、図書館に「室原文庫」設置) ●ヨーロッパ共同体 (EU) 成立
- 11月 第5代図書館長・広瀬捨三就任
- 43 (1968) 4月 社会学部学舎 (第3学舎) に臨時開架閲覧室を開設 ▲『利用あんない』 (全26ページの写真入り本格的パンフレット) 制作【写真45】
- 9月 『図書館蔵書目録和文篇』刊行
- 12月 「大阪地区大学図書館における新聞の分担保存に関する協定」発効
- 44 (1969) 1月 ●国内で大学紛争激化
- 6月 ■学園紛争が拡大
- 7月 ●アメリカの宇宙船アポロ11号、世界初の月面着陸成功 (72年まで6回)
- 10月 第6代図書館長・荒井政治就任
- 11月 第7代図書館長・見次直雄就任
- 45 (1970) 3月 ●日本万国博覧会EXPO'70が吹田市千里丘陵で「人類の進歩と調和」をテーマに開催
- 4月 ●大阪市天六ガス爆発事故発生
- 5月 ●「著作権法」制定
- 10月 『雑誌目録和文篇第2版 (自然・工学)』刊行
- 46 (1971) 1月 『蔵書目録欧文篇 (経済・産業)』刊行
- 3月 蔵書630,748冊 ■工業技術研究所内に電子計算機室を開設
- 6月 「室原文庫 (LM3)」設置
- 8月 ●円変動相場制の実施
- 47 (1972) 1月 ■学生費値上紛争により24日からの学年末試験は全部レポートに切替えられた ▲大学封鎖のため名神高速道路上の本学駐車場にプレハブの学部事務室の他、図書館の目録カード検索コーナーや貸出・返却窓口が設けられた ▲『吉田文庫目録』刊行
- 3月 「極東国際軍事裁判資料 (LF)」が東西学術研究所から図書館へ移管され、『極東国際軍事裁判資料目録』



第4代館長
堀 正人



第5代館長
広瀬 捨三



第6代館長
荒井 政治



第7代館長
見次 直雄

- を刊行 ■高松古墳発掘調査（極彩色の壁画を発見）
- 4月 ●学校法人会計基準制定・施行 ▲同会計基準に従い、固定資産図書「A系」登録番号および消耗図書「B系」登録番号開始【写真30・37】 ▲「関西大学図書館図書複写規程」制定（昭和30年に制定の同名規程は廃止）
- 9月 「図書館建築計画小委員会」（後に図書館建設計画小委員会と改称）を設け、新図書館についての検討を始める
- 11月 ●「図書の会計処理について」の文部省通達あり（長期にわたり保存・使用する図書は、取得価格の多寡にかかわらず固定資産に属する図書として取扱い、学習用図書は取得した年度の消費支出として取扱うことを可とし、雑誌は製本費で取得価額としてよいとある）
- 12月 ●『大学図書館研究』創刊（昭和58年からは国公私立大学図書館協力委員会が編集する）
- 48 (1973) 5月 第8代図書館長・高尾忠男就任
9月 第9代図書館長・前田春興就任
10月 第10代図書館長・中村幸彦就任
- 49 (1974) 4月 「阪神地区相互利用に関する協定」発効
5月 ●大阪市が史跡顕彰碑「関西法律学校発祥の地」を願宗寺跡に建立
6月 図書館業務機械化構想1期案策定
9月 大学図書委員会の中に「図書館建築小委員会」を置き、他大学図書館等の調査に着手
- 50 (1975) 2月 図書館建築小委員会の調査結果を学長に報告
3月 『蔵書目録和文篇（政治・法律、第1分冊:政治）』刊行
4月 本学図書館が私立大学図書館協会の常任理事校（会長校）となり、昭和50・51年度の会務を中村幸彦館長が掌理する
9月 「服部文庫（LH3）」設置
11月 ■大学創立90周年記念式を挙行
12月 「図書館総合計画委員会」を設置
- 51 (1976) 2月 ●ロッキード事件
3月 図書館広報誌『籍苑』創刊【写真44】 ▲『岩崎美隆文庫・五弓雪窓文庫目録』刊行 ▲蔵書829,091冊
4月 国立国会図書館印刷カードを導入
5月 図書館総合計画委員会より学長宛「図書館及びその類縁機関における図書資料の取扱い方法の改善について」（中間答申）提出
6月 「図書館建設計画小委員会」を第1分科会（ソフト）、第2分科会（ハード）に分ける
10月 第11代図書館長・辻岡美延就任 ▲マイクロ資料の整理を開始し、別置記号を「MF、MS、MC」とする
12月 図書館業務機械化準備会発足
- 52 (1977) 1月 図書館業務機械化プロジェクトチーム発足（業務の現状分析と文献調査）
3月 蔵書863,015冊 ▲図書館総合計画委員会より「図書館総合計画の策定について」を学長に答申 ▲業務機械化計画の大綱を策定（学術雑誌、洋書、和書及び閲覧奉仕の各システムのうち、第1段階として「学術雑誌管理システム試案」を作成）
4月 「関西大学図書館図書管理規程」施行 ▲MARC-II（LC）カード導入
6月 学長により「図書館総合計画の策定について」を理事会に進達、承認
8月 「図書館建設実行委員会」を設置 ●日中平和友好条約調印
12月 図書館にオンライン端末装置を設置し、ホストコンピュータと接続 ▲「関西大学学術雑誌管理システム」開発計画を策定し、「KULPIS」と命名する
- 53 (1978) 2月 KULPISオンライン運用システムを自館開発
3月 KULPISのオンラインシステム（学術雑誌仮受入業務）を開始
4月 「阪神地区相互利用協定『分担保存実施要領』」施行
6月 「増田渉文庫（LM2）」設置
9月 KULPISのオンラインシステム（所蔵検索業務）を開始
10月 図書館建設実行委員会より「総合図書館の建設計画について」（答申その1:新図書館の建物の規模、形状、構成及び建設用地について）を学園建設委員会委員長に提出 ▲KULPISを学内に披露する（デモンス



第8代館長
高尾 忠男



第9代館長
前田 春興



第10代館長
中村 幸彦



第11代館長
辻岡 美延

- トレーション実施)
- 54 (1979) 3月 『摂津国嶋上郡高浜村西田家文書目録』 刊行
 4月 学園建設委員会より前年10月の「答申その1」を理事長に答申、理事会において承認 ▲KULPISによる固定資産製本雑誌の登録番号「C1」番より開始
 5月 第12代図書館長・大西昭男就任 ●改訂「図書館の自由に関する宣言」が日本図書館協会総会で決議
 10月 第13代図書館長・大庭脩就任 ▲「矢口文庫 (LY2)」設置
 11月 ●国公立大学図書館協力委員会設立

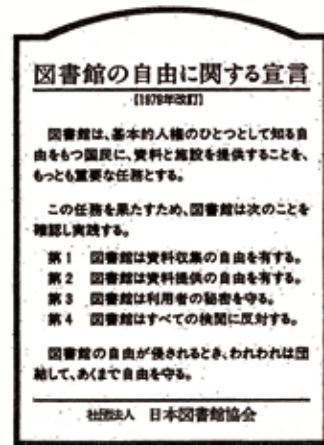


第12代館長
大西 昭男



第13代館長
大庭 脩

- 55 (1980) 1月 ●学術審議会より「今後における学術情報システムの在り方」が答申される
 3月 『河内国丹北郡六反村西田家文書目録』 刊行
 5月 ●『大学図書館協力ニュース』 創刊
 6月 ●日本図書館協会は「図書館員の倫理綱領」の制定を総会で決議



- 56 (1981) 2月 『摂津国住吉郡中喜連村佐々木家文書目録』 刊行
 3月 図書館建設実行委員会より「新図書館建設計画案」(答申その2)を学園建設委員長に提出 ▲学内図書資料所蔵関係機関を含む学術雑誌の総合目録化着手 ▲蔵書1,062,218冊 ▲「関西四大学図書館長会議規約」締結 ▲「関西四大学図書館相互利用協定」発効 ▲図書館閲覧システム開発計画を策定
 5月 運営課の分掌業務に図書館機械化業務を加え、図書課を廃止し、収書課、整理課の2課を設ける ▲「図書館建設計画小委員会」を改組し、「図書館建設小委員会」発足
 7月 第1回学内図書資料に関する事務連絡会議開催 (昭和55年12月27日付文部省大学局長からの学長宛文書「経済学・商学関係学部の改善について」に従い、学長の命令により大学事務局長が主宰。学内所蔵機関逐次刊行物目録欧文編作成計画案が示される) ▲『和泉国大鳥郡豊田村小谷家文書目録』 刊行
 10月 第14代図書館長・名取栄史就任
 11月 鬼頭梓建築設計事務所に総合図書館の設計を委託 ▲図書館業務機械化第1次中期計画 (昭和57~61年度) を策定

- 57 (1982) 3月 『和泉国大鳥郡岩室村中林家文書目録』 刊行
 4月 初代図書館次長・森川彰就任 (~58年3月) ▲館内の「図書館建設小委員会」に6分科会を設ける (書庫・移動計画、閲覧関係、業務機械化、事務組織・分掌事項、連絡調整会議、事務局) ■第4グラウンド竣工 ▲第1次図書館業務機械化中期計画 (~61年度) 実施 ▲総合図書館開館に備えて、現蔵の学習用図書を転用して再利用する分に「16系」の登録番号を付与し、補充するリフレッシュ分に「17系」を付与することを決定 ■関西大学情報処理センター開設 (関西大学電子計算機室を改組)
 5月 関西大学総合図書館・情報処理センター基本設計完成 【写真15】
 9月 関西大学総合図書館・情報処理センター実施設計完成
 10月 貴重書のマイクロ撮影計画を開始



第14代館長
名取 栄史



設計者
鬼頭 梓

- 58 (1983) 1月 EC (欧州共同体) 委員会が本学図書館にEC資料センターの設置を認可
 2月 関西大学総合図書館・情報処理センター起工式を挙行 【建設中の写真17】
 3月 TRC/MARC (JAPAN/MARC仕様) の導入を決める ▲総合図書館に向けての開架図書のリフレッシュ作業開始 ▲『関西大学逐次刊行物目録欧文篇』 (初版) を電算編集し刊行
 4月 TRC方式による学習用図書の発注を開始し、和図書に登録番号「18系」を付与 ▲専門図書館内にEC資料センターを開設 ▲「大阪文芸資料 (LO2)」の蒐集を本格的に開始
 6月 「図書館業務機械化特別委員会」発足 ▲閲覧システムの設計作業開始 ▲『増田涉文庫目録』 刊行
 9月 書庫図書の簡易データ入力を開始 (昭和60年2月新規受入図書より順次JAPAN/MARC仕様化)
 10月 専門図書館にIR用端末機を置き、JOISとDIALOGのIRサービスを開始



OCRラベル
(下段は貼付作業用参照データ)

- 59 (1984) 2月 書庫図書の全てにOCRラベル貼付作業

- 3月 『関西大学逐次刊行物目録和文雑誌編』（初版）を電算編集し刊行
 4月 国公私立大学図書館協力委員会の第5期委員長に名取栄史館長が就任
 ▲「内藤文庫調査特別委員会」設置（～平成7年4月）
 7月 開架図書リフレッシュ作業
 8月 ●臨時教育審議会設置
 9月 開架図書のTRC/MARC仕様化
 10月 総合図書館・情報処理センター竣工式を挙行【写真18・19】 ▲「内藤文庫（L21）」設置
- 60 (1985) 2月 総合図書館への移転作業により2月21日より4月10日まで休館する ▲旧千里山本館及び専門図書館所蔵約100万冊を総合図書館へ移転（2月21日～3月14日）
 3月 閲覧貸出システム総合テスト・館員教育 ▲『矢口文庫目録』刊行
 4月 図書館業務組織を改組、運営課、閲覧参考課、収集整理課、逐次刊行物課及び天六分館事務室を置く
 ▲総合図書館開館（11日） ▲「関西大学図書館利用規程」施行 ▲閲覧貸出システム運用開始 ▲図書館利用券「KUL-card」発行開始【写真16】 ▲利用者用所蔵・検索システム「KUL」運用開始 ▲第1回特別展示（「関西大学総合図書館開館記念特別展示 内藤文庫展」）開催【写真48】 ▲図書費予算4.8億円
 5月 私学振興財団に〈特色ある研究助成〉が創設され、本学より「電算システムによる目録情報サービスの組織化」をテーマとして申請し、昭和63年度まで4ヵ年助成を受ける
 10月 オリエンテーション用ビデオ『本の世界』を制作
- 61 (1986) 3月 蔵書1,342,201冊
 4月 来館者用図書館案内パンフレット『総合図書館』作成（平成7（1995）年まで重版使用）【写真47】
 ▲学習用洋図書に登録番号「11系」を付与 ●文部省学術情報センター設置
 5月 天六分館閲覧貸出システム（オフライン・パソコン対応）を開発し、10月より運用
 10月 第15代図書館長・高島義郎就任 ▲図書館業務機械化第2次中期計画（昭和62～平成元年度）を策定 ▲上位年次用ビデオ『私と図書館』『雑誌論文をさがすには』他制作を開始
- 11月 ■大学創立100周年記念式典・記念祝賀会を挙行 ▲第7回特別展示「関西大学創立100周年記念：大阪名家自筆稿本百種展」開催【写真49】 ▲『内藤文庫漢籍古刊・古鈔目録』刊行
- 62 (1987) 3月 『近世文書目録その一』刊行
 4月 図書館次長・大橋勲就任（～元年3月） ■法学研究所開設
 ▲第2次図書館業務機械化中期計画（～64年度）を実施
 ●国鉄民営化によりJR発足
 9月 上位年次用『ガイドブック 文献のさがし方から入手まで』（初版）を刊行
 11月 パンフレット『図書館HOW TOシリーズ』作成開始
- 63 (1988) 4月 ●瀬戸大橋開通
 6月 図書館図書管理規程におけるマイクロ形態資料の管理区分を変更し、固定資産に区分する
 10月 第4回日本図書館協会建築賞に、総合図書館が「建物のみならず、すぐれた機能を持つ専門施設」であるとして優秀賞を受ける
- 平成元年(1989) 3月 『近世文書目録その二』刊行
 4月 図書館次長・大國克子就任（～6年3月） ▲利用者用所蔵検索システムKULをバージョンアップして「KUL-II」運用開始（学外から電話回線による利用を実現） ▲図書費予算5.7億円 ▲マイクロフィルム35mm版に「61系」、マイクロフィッシュに「62系」、オーディオテープに「64系」、ビデオテープに「65系」の登録番号を付与 ●消費税法律施行（3%の課税）
 5月 私学振興財団〈特色ある研究助成〉に「大阪文芸に関わる資料の発掘、収集・保存、及び研究・目録刊行」をテーマとして申請し、平成4年度まで4ヵ年助成を受ける
 10月 第16代図書館長・吉田永宏就任 ▲「図書館における図書館資料としてのニューメディア取扱・暫定要領」を定め、CD-ROM、フロッピーディスク、磁気テープ等の収集並びに提供開始 ▲『内藤文庫リスト』をNo. 1より順次刊行（～No. 5）
 11月 ■関西大学100周年記念会館竣工 ■国際交流センター開設 ●ベルリンの壁撤去



第15代館長
高島 義郎



- 2 (1990) 1月 ●第1回大学入試センター試験実施
 2月 第3次図書館業務機械化中期計画(～平成4年度)を策定
 3月 『大阪文芸資料目録』刊行【写真41・42】 ●私立大学図書館協会機械化委員会編『大学図書館機械化便覧』刊行
 4月 「図書館利用に関する取扱要領」制定 ▲目録システム(図書を受発注、支払、予算管理、配架、目録、図書管理等業務)開発
 12月 「北條秀司米寿記念劇作展」開催【写真50・51】
- 3 (1991) 3月 ■高槻校地竣工式を挙行 ▲蔵書1,507,366冊
 6月 文部省学術情報センターの目録所在情報システムNACSIS-CATをVTSS方式で接続申請し利用開始
 7月 「図書館長の権限の一部委譲について(支払依頼行為承認者を図書館次長に委ねること)」が了承される
 10月 第17代図書館長・浦西和彦就任 ▲図書委員会により、テーマを設定した基本図書の選定に「ドイツ統一」を決める(平成3～4年度実施)
 11月 図書委員会で「カード目録(作成中止)について」審議が開始される
 12月 ●ソビエト連邦消滅
- 4 (1992) 大阪商工会議所とにおいて「毛戸文庫」の寄託を解除(受寄資料は廃棄する)
 4月 書庫図書目録データ「週及入力7ヵ年計画」を策定 ▲文部省学術情報センターの相互利用システムNACSIS-ILL・情報検索システムNACSIS-IRを利用開始
 9月 情報処理センターによる個人の利用者ID番号が、すべての学生に交付(申請交付方式から全員交付に)される
- 5 (1993) 3月 目録システム運用開始 ▲『芝居番付目録』刊行 ●『私立大学図書館協会50年史』(本文篇、記録篇、論文集の3冊)刊行される
 4月 図書費予算6.6億円 ▲マイクロフィルム16mm版に「63系」の登録番号を付与
 5月 書庫図書目録データ「週及入力7ヵ年計画」実施 ▲EDCセミナーを本学図書館にて開催
 8月 私立大学図書館協会総大会(第54回)を本学にて開催(テーマ「継承と変革の大学図書館」)および、記念展示開催【写真55】
 10月 「長澤文庫(L23)」創設 ▲利用者用蔵書検索システムKUL-IIをバージョンアップ(漢字検索機能〈中間一致〉追加、利用状況表示)
 11月 私学振興財団〈教育学術情報ネットワーク関連助成〉に「OPAC・データベースの拡充」をテーマとして申請、平成6年度より現在も助成金を受ける ▲図書委員会により、テーマを設定した基本図書の選定に「冷戦後のアメリカ研究(一)経済・産業」(平成5～6年度実施)、及び「冷戦後のアメリカ研究(二)政治・文化」(平成6～7年度実施)を決める
- 6 (1994) 3月 第2部の千里山キャンパス移転に伴い天六分館有終閉館 ▲天六分館の蔵書「B系」「D系」「1系」を除却(「1系」の図書で必要分はロケーション記号「T」のまま高槻図書室へ移管し、「B系」の一部を総合図書館へ移す) ■総合情報学部学舎棟が竣工
 4月 ■総合情報学部開設 ▲高槻図書室をオープン【写真21】 ▲図書館次長・永橋充昭就任(～9年3月) ▲関西大学図書館自己点検・評価委員会発足(規程の制定は、同年1月) ▲磁気カード化された教職員証・学生証(図書館利用者ID番号付)が交付され、「KUL-card」を廃止 ▲目録システムをKULPISと併合し「図書館情報システム」として全稼働 ▲平成6年度より新規受入図書の「カード目録」作成を中止し、オンライン目録KUL-II(OPAC)に切替える ■博物館が開館 ■第2部が天六から千里山へ移転
 5月 私学振興財団〈特色ある研究助成〉に「書誌学基礎資料の整備充実及び学術資料の組織化研究(長澤文庫関連)」をテーマとして申請、平成6年度より助成を受けている
 7月 『関西大学図書館影印叢書』第1回配本(第4巻)より刊行【写真43】
 9月 学外展示「関西大学文学部創設70周年記念・関西大学図書館創設80周年記念 おおさか文藝書画展」大丸心斎橋店にて開催【写真52～54】 ●関西国際空港開港
 10月 学外展示「関西大学図書館創設80周年記念 近世・近代の文藝書画展」奈良県新公会堂にて開催
 11月 カラーコピー機導入(1枚100円)
- 7 (1995) 1月 ●学年末試験開始前日に、阪神・淡路大震災 ▲2月より6月まで、本学図書館を被災関連の阪神地区大学学生の利用に供する



第16代館長
吉田 永宏



第17代館長
浦西 和彦

- 3月 関西大学図書館報『籍苑』第40号にて終刊
- 4月 入館機(磁気カード対応)及び退館機を1階エントランスホールに移設 ▲学内総合目録構築に向けて「関係所蔵機関用蔵書管理システム」を開発、視聴覚教室・人権問題研究室・法学研究所等順次運用
- 7月 「図書館の電子化構想(図書館電算化第2期構想)」を策定
- 9月 「第2期構想第1次中期計画(平成8～10年度)」を立案 ▲CD-ROMサーバーシステム(6クライアント)運用開始 ▲インターネット「関西大学図書館ホームページ」テスト公開(図書館のインフォメーションを含めて、大学のホームページも試験運用開始される) ▲外国の逐次刊行物の受入先につき、丸善・紀伊國屋等経常取引書籍業者10社に代えて、オランダのスエッツ社に変更
- 10月 図書委員会により、テーマを設定した基本図書の選定に「災害と環境破壊」(平成7～8年度実施)を決める ▲第1回関西大学図書館セミナー「米国議会情報とインターナショナル」を開催
- 8 (1996) 3月 『関西大学図書館フォーラム』を創刊 ▲図書館自己点検・評価委員会により自己点検・評価の「報告書」作成して図書委員会に報告 ▲同報告書を以降毎年度『図書館フォーラム』に収載する ▲新版の来館者用パンフレット『総合図書館』発行
- 5月 館内LAN(教育研究用、及び事務用LAN)整備、拡張
- 7月 CD-ROMサーバーシステムを教育研究用LANに接続し、高槻図書室にクライアントを設置 ●堺市内の小学校で病原性大腸菌(O157)集団食中毒発生
- 9月 WWW版利用者蔵書検索システムの開発に着手
- 10月 ■インターネットで関西大学ホームページ(図書館インフォメーションを含む)の運用開始 ▲新関西大学会館竣工記念特別展示「関西大学図書館所蔵文書 戦国武将の書状展」開催
- 12月 総合図書館1階雑誌コーナー等に閲覧座席増設
- 9 (1997) 3月 『関西大学所蔵 大坂画壇目録』刊行【写真39】 ▲図書館案内ビデオ『知識と情報へのアクセス』を製作 ●私立大学図書館協会が「新私立大学図書館改善要項」を制定
- 4月 図書館次長・船越一英就任(～15年3月) ▲私用複写機にプリペード・カード方式導入(ディスプレイ、カード自動販売機設置) ▲第2バージョンの改訂新版『図書館利用案内』(1996年度版)発行【写真46】 ■エクステンション・リードセンター開設 ●消費税法律改訂(5%となる)
- 5月 京阪百貨店守口店のギャラリーで学外展示「大坂の書と画と本-関西大学所蔵-」を開催
- 10月 第18代図書館長・山野博史就任 ▲第2回関西大学図書館セミナー「インターネットと法情報」を開催
- 11月 WWW版利用者蔵書検索システム(愛称「KOALA」)の館内試験運用開始
- 10 (1998) 3月 ■大学基準協会より「貴大学は大学基準に適合し」「相互評価の認定を行うことが適当である」(ただし、閲覧座席数等に関する指摘事項を含む)旨の通知あり
- 4月 総合情報学部完成(第1期生卒業)と同時に高槻キャンパスに設置の高槻図書室が図書館の組織となる ▲KOALAの本運用開始 ●明石海峡大橋が開通(7月に「中村幸彦文庫」が洲本市の中村邸から本学図書館へこの大橋を渡ってくる)
- 10月 インターネットでKOALAの公開を開始 ▲洋雑誌目次検索システムを開発し(約14,000タイトルの最新の目次情報が検索可能)運用開始 ▲電子ジャーナルのサービス(英国MCB University Press 発行の雑誌8タイトル)をテスト運用
- 11月 第3回関西大学図書館セミナー「いま図書館員に求められるもの」を開催
- 12月 「関西大学図書館がめざす方向」ビジョン7項目を策定
- 11 (1999) 2月 文部科学省学術情報センターNACSISの「学術雑誌目次速報データベース」に参画
- 3月 公開性の高いCD-ROMサーバーへの移行により、学内LAN上でのサービス提供を可能とした ▲第2期目録情報週及3ヵ年計画を策定(第1期7ヵ年計画最終年度96%完了)



阪神・淡路大震災による3階貴重書庫の被害



第18代館長
山野 博史

関西大学図書館がめざす方向
—図書館ビジョン7項目—
<平成10年12月1日策定>

- 1 学術情報を提供するためのメディアの多様化に対応しうる図書館をめざす
- 2 関西大学図書館といえはすぐに思い浮かべられるような、本学図書館独自の事業を展開する
- 3 インターネットなどを通じて積極的な広報活動を推進し、関西大学図書館の存在と特徴をアピールする
また、図書館ホームページでは、広範的な情報以外に、可能な限りの情報サービスを展開し、「図書館電子カウンター」の役割を持たせる
- 4 いわゆる「図書館の公開」を推進し、蔵書のより有効な活用をめざす
- 5 図書館が展開する諸事業を支えることができる人材の育成に努力を傾注する
- 6 より有効な職員の利用が求められている本学の現状に対応するため、図書館のすべての業務を見直し、アウトソーシングの積極的活用を図る
- 7 業者パッケージの導入を前提に、図書館システム全体のオープンシステム化を推進する

- 4月 KOALA及び「洋雑誌目次検索システム」の各英語版サービス開始
- 5月 漢籍を中心としたCD-ROM版目録『内藤文庫目録 KUL-bijou』を刊行し、全国の大学図書館等へ配付【写真40】
- 11月 第4回関西大学図書館セミナー「書誌の学苑に遊ぶ」を開催 ▲図書館ホームページをサービス主導型に全面リニューアルし、新しい窓口（電子カウンター）として位置づけた ▲電子ジャーナル導入計画推進（エルゼビア・サイエンスのサイエンスダイレクト等1000誌以上のオンラインジャーナルにアクセスを可能にした）
- 12（2000） 3月 第2期目録情報週及3ヵ年計画を開始
- 4月 図書館事務組織改編（図書情報管理課を元の運営課に、閲覧サービス課とレファレンスサービス課を併せて元の閲覧参考課にし、学術資料課継続して3課体制となる） ▲閲覧サービス部門にアウトソーシングを導入し、通常22時まで延長して夜間開館するとともに国民の祝日も開館してサービスの拡大を図る（この件、大学から6月の理事会に報告される） ▲既蔵書の目録データ週及入力（第2次3ヵ年計画）開始 ●文部省学術情報センターが廃止・転換されて、国立情報学研究所に改組される ■全学共通教育推進機構と外国語教育研究機構を設置
- 6月 本誌『関西大学図書館フォーラム』の第5号から図書館ホームページに全文を掲載
- 7月 インターネット環境の整ったパソコンの設置 ■大学院学舎棟・尚文館が竣工 ▲同学舎棟と結ぶ研究者専用通路を設置し、研究者カウンター開設
- 8月 『内藤文庫目録 KUL-bijou』刊行に対して、私立大学図書館協会より1999年度「協会賞第1部賞（図書館学の研究・調査業績）」を授与される ●介護保険制度スタート
- 13（2001） 1月 ●国の中央省庁改編、1府に12省となる
- 3月 「中村幸彦文庫（L24）」を創設【写真58】
- 5月 監査法人により「図書台帳の電子化について」了承される ▲監査法人の承認により、図書館図書管理規程にもとづく図書の現物照合を循環方式によって再開する
- 7月 「関西大学図書館規程」制定 ▲私立五大学図書館（関西大・慶應義塾大・早稲田大・東京慈恵会医大・九州産大）はISIコンソーシアム代表委員会を組織し、文献データベースWeb of Science導入（lexis.com導入など外部データベースやオンラインジャーナル導入の拡充を図り、〈本学の図書館ビジョン第1項目「メディアの多様化に対応しうる図書館」を推進） ▲所有権がなく利用権のみある電子ジャーナルや外部データベースの利用にかかる費用を、図書館図書費で可とする旨、図書委員会、学部長会議、理事会の各承認を得る
- 9月 国立情報学研究所・私立大学図書館協会・関西大学図書館共催「目録システム地域講習会図書コース」を開催 ●米国で同時多発テロが発生
- 10月 第19代図書館長・永沼博道就任 ▲関西大学図書館Web of Science導入記念セミナーを開催
- 14（2002） 3月 「廣瀬文庫（L25）」を創設【写真27】
- 4月 図書館等を傘下とする学術情報事務局が置かれ、初代事務局長に松原克彦が就任（～16年3月）、15年度のみ図書館次長を兼ねる ▲図書館オープンシステム運用開始 ▲収集整理部門の発注から整理・納品までの業務にアウトソーシング導入 ▲オープンシステム移動に伴い、登録番号「A系」「B系」を凍結し、新番号体系の「21系」（固定資産図書用）、「22」系（館外整理洋図書固定資産用）、「23系」（館外整理和図書固定資産用）、「31系」（準資産図書用）、（館外整理和図書準資産用）、「33系」（館外整理洋図書準資産用）、「41系」（製本雑誌固定資産用）を、各々付与開始 ▲蔵書印の押印を廃止する【写真28～35】
- 7月 国立情報学研究所NIIの「紀要ポータルサイト」への協力を開始
- 9月 図書館オンラインサービス開始（利用状況照会・予約取り寄せ・購入希望申込み等）を開始 ▲関西大学の制度による「インターシップ学生」を図書館でも受入（開始初年度） ▲「目録システム地域講習会図書コース」を開催 ▲経済・政治研究所より、社史、地方史、団体史、Source OECD、統計書を図書館へ移管
- 10月 ●「身体障害者補助犬法」および関連法の施行に伴い文部科学省より“身体障害者が身体障害者補助犬を同伴することを拒んではならない”旨の通知あり
- 11月 第6回関西大学図書館セミナー「米国の学術図書館における米英政府刊行物の利用実態」を開催



第19代館長
永沼 博道

- 15 (2003) 3月 ウェブサイトに「関西大学図書館 電子展示室」を開設し、第一弾として「長谷川貞信（大阪の浮世絵）」を公開して、以降平成18年末までに「伊勢物語」「北山切新古今集」「八代集の世界」および「ちりめん本」の各全文を公開している【写真61~64】
- 4月 関西大学学術情報データベースの業務所管が大学事務局学長秘書課から図書館運営課に変更（平成18年8月、同課から研究支援センターへ再移管） ■昼夜開講制実施 ●国公立大学図書館協力委員会から「大学図書館における文献複写に関する実施要項」を周知される
- 5月 電子ジャーナル・データベース導入にかかる私立大学図書館コンソーシアムPULCを形成（早稲田大、慶應義塾大、関西大、関西学院大、同志社大、立命館大が発起代表委員となり、OUP社の電子ジャーナル継続購読問題、Elsevier社への公正取引委員会提訴や価格問題解決にあたり、電子ジャーナル提供各社への価格交渉と各大学への積極的な導入を推進）
- 10月 第20代図書館長・田中登就任 ▲第7回関西大学図書館セミナー「Westlaw リーガル・リサーチ講習会」開催
- 12月 ●米国産牛海綿状脳症BSE発生
- 16 (2004) 1月 ●鳥インフルエンザ発生
- 4月 学術情報事務局長に葛馬壽秀が就任し（～18年3月）、16年度のみ図書館次長を兼ねる
■法科大学院設置 ■情報処理センターが圓神館（旧専門図書館）に移転し、ITセンターと改称
- 5月 図書館利用教育Webコンテンツ「KUL GATEWAY〈関西大学総合図書館案内 on the Web〉」を図書館ホームページにより公開
- 10月 ■スーパーSINETの運用を開始
- 17 (2005) 3月 旧情報処理センター跡地を図書館に編入する手続きを完了（これを「第2書庫」と名称。総合図書館の面積は19,105.87→21,749.93㎡となる）
- 4月 図書館次長・市原憲厚就任 ■社会連携推進本部開設 ●JR福知山線脱線事故大惨事
- 7月 ●英国で同時多発テロが発生
- 11月 図書館の社会貢献（図書館の公開）計画策定のため「関西大学総合図書館公開モニター」を実施（本学社会連携センターを通じ吹田市民に広報し、112名が1ヵ年間モニターとなる） ●全国のマンションやホテルに耐震データ偽造発覚
- 18 (2006) 2月 ●神戸空港開港
- 4月 学術情報事務局長・東郷洋就任（～現在） ■会計専門職大学院設置
- 8月 図書館・博物館を傘下とする学術センターが置かれ、同センター次長（図書館担当）に市原憲厚が就任（～現在） ▲大学の事務組織の改編に伴い、図書館事務組織は、運営課・閲覧参考課・収集整理課の3課、高槻図書室、学部資料室が統合し、「図書館事務室」の1つとなる ■学部事務室・大学院事務室等が改組され教務センターが創設される ●冥王星が太陽系惑星から“降格”
- 10月 第21代図書館長・市川訓敏就任（～現在） ●阪急ホールディングス（旧阪急電鉄）と阪神電気鉄道が経営統合
- 11月 ■創立120周年記念式典を挙行 ▲「関西大学創立120周年記念大坂画壇の絵画展」開催【写真60】
- 19 (2007) 3月 ■大学基準協会より「貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は2014（平成26）年3月31日までとする」との認証評価結果の通知あり ■簡文館（旧図書館千里山本館）が文化庁の「登録文化財」に指定される ■2007世界フィギュア選手権大会において高橋大輔が銀メダルに輝く（オリンピック・世界選手権で日本の男子選手が銀メダルを獲得したのは初の快挙） ▲図書館ホームページのリニューアル完成 ●『図書館雑誌』が創刊1000号となる
- 4月 「図書館の一般開放」（申込制による一般社会人100名を超える利用）を正式に開始 ▲音声ガイドシステム＝イヤホンガイドを開始（イヤホンガイドは全部で20台あり、20箇所を、説明時間20分の音声で館内を案内している） ■政策創造学部開設 ■工学部の改編によりシステム理工学部、環境都市工学部および化学生命工学部が開設される
- 5月 8年ぶりにリニューアルした図書館ホームページ正式にオープン



第20代館長
田中 登



第21代館長
市川 訓敏

図書館の風景



1 福島学舎の図書館
大正3年に竣工した2階建ての洋風館で、
本学初の独立建築による図書館。



2 福島学舎の図書館
開館当初の閲覧室（大正3年）。



3 図書館閲覧室の学生たち
緋の着物と袴姿であった（大正4年）。



4 千里山本館建築の様子（昭和2年）



5 昭和3年に竣工した千里山本館
のち、この前に円形の開架閲覧室と左
側に書庫が増築された。現在は簡文館。



6 千里山本館2階の大閲覧室（昭和14年）



7 西部劇映画の銀行のシーンを思わせる千里山本館奉仕室のカウンター（昭和29年）
図書の貸出には住所と氏名と押印が必要であった。この鉄格子は昭和40年に撤去した。



8 専門図書館の閲覧室（昭和42年）



9 千里山本館の開架閲覧室
まだ詰襟の学生服姿が大半であった（昭和42年）。



10 専門図書館奉仕室カウンター（昭和42年）



11 専門図書館へ向かう学生たち
昭和46年頃の写真で、現在は圓神館。



12 昼休みに千里山本館前スタンドで憩う学生たち
昭和46年頃の写真で、現在はもうこのスタンドはない。



13 天六学舎と図書館天六分館
平成6年3月まで中央と左の建物の4階に分館があった。



14 天六分館の雑誌閲覧室（昭和42年）



15 『日本経済新聞』
（昭和57年4月17日号）



16 図書館利用券「KUL-card」
（昭和50年4月～平成6年3月）



17 鉄骨が組み上がっていく建設中の総合図書館
（昭和58年11月）



18 竣工当時の総合図書館（昭和59年）



19 総合図書館正面でテープカット
（右から久井理事長、大西学長、名取館長、辻岡所長）

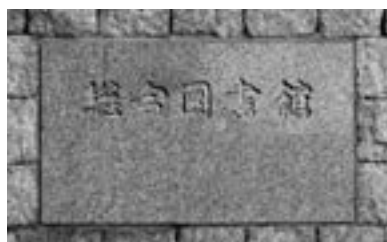
図書館の表札



22 千里山本館銅製表札
第18・21代学長岡野留次郎の書で、現在は文書庫に保管している（76×23cm）。



23 専門図書館に昭和60年3月まで掲げられていた真鍮製の表札
第3代館長大小島真二の書で、現在は文書庫に保管している（縦型74×17cm、横型22.5×140cm）。



24 総合図書館の表札
御影石に刻まれている（89×153cm）。



20 総合図書館2階開架閲覧室

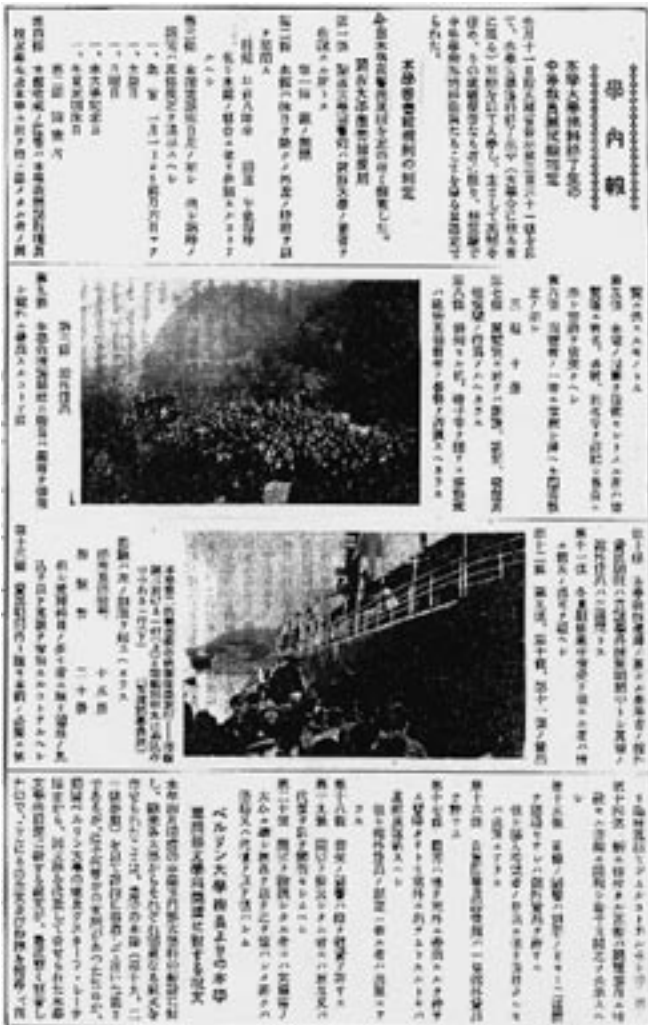


21 高槻キャンパスB棟の図書・教室棟
（平成6年総合情報学部・図書室開設）

図書館規程の変遷

*元号Tは大正、Sは昭和、Hは平成を略している。

- T13. 關西大學圖書館規則 (S4.11.14關西大学図書館規程に改定されたことにより廃止)
- S4.11.15關西大学図書館規程 (S23. 關西大学が新制大学に移行したことにより廃止)
- S24.03.19關西大學圖書館學講習所規則 (S36同講習所所有終廃止)
- S28.11.01附属図書館組織規程(S42.04.28学校法人關西大学及び設置学校事務組織規程制定により廃止)
- S28.12.14關西大学図書館閲覧及び帯出規程 (S60.02.08図書館利用規程制定により廃止)
- S30.04.26個人研究用図書規程 (H08.03.29個人研究費取扱規程制定により廃止)
- S30.11.10關西大学図書館図書複写規程 (S47.04.15同名の規程制定により廃止)
- S31.06.21關西大学図書館〈第一〉分室規程 (S60.02.08図書館利用規程制定により廃止)
- S31.06.21關西大学図書委員会規程
- S34.09.15關西大学共同研究室図書帯出規程 (S60.02.08図書館利用規程制定により廃止)
- S36.09.19図書館長の任命及び任期に関する規程 (H13.10.01図書館規程制定により廃止)
- S47.04.15關西大学図書館図書複写規程 (S60.02.08図書館利用規程制定により廃止)
- S52.03.19關西大学図書館図書管理規程
- S60.02.08關西大学図書館利用規程
- H06.01.28關西大学図書館自己点検・評価委員会規程
- H13.10.01關西大学図書館規程 (過去に同名の規程があったが、それは主として閲覧手続を規定したものであった)



25 關西大學圖書館規則 (『千里山學報』第24号、大正13年より)



26 關西大学図書館學講習所入學募集要項 (昭和24~30年)

文庫・特別コレクション形成の経緯

(1) 個人文庫・特別コレクション

	文庫名	旧蔵者名	受入年		文庫名	旧蔵者名	受入年
1	柿崎記念文庫	柿崎欽吾	大正14	20	岩崎美隆文庫	岩崎美隆	昭和35
2	山岡記念文庫	—	昭和4	21	岩崎文庫	岩崎卯一	昭和36
3	堀文庫	—	昭和4	22	宮島文庫	宮島綱男	昭和36
4	三島文庫	三島聰恵	昭和14	23	玄武洞文庫	田結莊金治	昭和37
5	小畑文庫	小畑忠良	昭和15	24	木島コレクション	木島誠三	昭和40
6	細江文庫	細江逸記	昭和22	25	柴田文庫	柴田銀次郎	昭和44
7	生田文庫	生田耕一	昭和24	26	室原文庫	室原知幸	昭和46
8	堀文庫	堀経夫	昭和25	27	服部文庫	服部英次郎	昭和50
9	吉田文庫	吉田伊三郎	昭和25	28	増田渉文庫	増田渉	昭和53
10	泊園文庫	藤澤家	昭和26	29	矢口文庫	矢口孝次郎	昭和54
11	極東国際軍事裁判資料	岡本尚一	昭和26	30	植田文庫	関西大学教育後援会	昭和55
12	穎原文庫	穎原退蔵	昭和26	31	大坂文芸資料コレクション	—	昭和57
13	聖書コレクション	木下清と同氏の岳父	昭和28	32	西原文庫	西原亀三	昭和58
14	森文庫	森繁夫	昭和29	33	ポスタン・コレクション	M.M. Postan	昭和58
15	五弓雪窓文庫	五弓雪窓	昭和30	34	内藤文庫	内藤湖南 内藤伯健	昭和59
16	蜷川文庫	蜷川虎三	昭和32				
17	三宅文庫	三宅宗悦	昭和32	35	長澤文庫	長澤規矩也	平成5
18	凱香園文庫	梶並暉一	昭和34	36	中村幸彦文庫	中村幸彦	平成13
19	本山コレクション	本山彦一	昭和35	37	廣瀬文庫	廣瀬捨三	平成14

(2) 近世文書

	文書名	旧蔵者名	受入年
1	堂島米市場文書	大坂堂島米穀取引所	昭和15
2	佐々木家文書	佐々木家	昭和31
3	小谷家文庫	小谷家	昭和32
4	西田家文庫	西田家	昭和33
5	谷川家文庫	谷川家	昭和42
6	中林家文庫	中林家	昭和32
7	春原家文庫	春原源太郎	昭和57



27 廣瀬本『萬葉集』（廣瀬文庫）

図書館の蔵書印



28 登録番号1番の図書に押された蔵書印



29 左の洋図書に登録番号1番が付された蔵書印



30 昭和47年学校会計基準施行に伴い固定資産図書『玉塵抄』第7巻に付された登録番号A1番の蔵書印



31 貴重な洋図書に押された蔵書印（上の写真は、その押型器）



32 蔵書印(朱印)



33 文庫の朱印



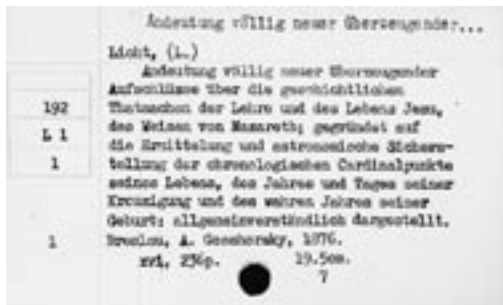
34 かくし印(原寸)



35 学習用図書に押されていた蔵書印

*平成14年4月から蔵書印の押印を廃止している。

図書館のカード目録と目録室

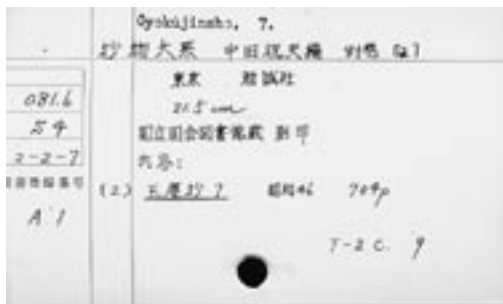


36 登録番号1番のカード目録(7.5×12.5cm)



38 天六分館の目録室

平成6年3月まで千里山本館所蔵図書のカード目録も備え付けられていて、希望図書が天六分館へ届けられていた。



37 登録番号A1番のカード目録

図書館の冊子目録・出版図書・案内パンフレット

(1) 図書館の冊子目録・CD-ROM版目録

*印を付しているものは、絶版・品切れ。

目録名	刊行年	目録名	刊行年
関西大学雑誌目録 和文篇*	昭和32年	内藤文庫漢籍古刊・古鈔目録	昭和61年
細江文庫目録	昭和33年	近世文書目録 その一	昭和62年
関西大学論文目録*	昭和33年	近世文書目録 その二	平成元年
泊園文庫蔵書書目並びに索引之部*	昭和33・35年	内藤文庫リストNo.1-5(*No.1は品切れ)	平成元~8年
関西大学雑誌目録 欧文篇*	昭和34年	大阪文芸資料目録	平成2年
関西大学参考図書目録 欧文篇*	昭和35年	芝居番付目録	平成5年
大阪関係資料目録	昭和35年	大坂画壇目録*	平成9年
生田・文庫・頼原文庫目録	昭和38年	撰津国嶋上郡高浜村 西田家文書目録	昭和54年
極東国際軍事裁判資料目録	昭和47年	河内国丹北郡六反村 谷川家文書目録	昭和55年
吉田文庫目録	昭和47年	撰津国住吉郡中喜連村 佐々木家文書目録	昭和56年
岩崎美隆文庫・五弓雪窓文庫目録	昭和51年	和泉国大島郡豊田村 小谷家文書目録	昭和56年
増田涉文庫目録	昭和58年	和泉国大島郡岩室村 中林家文書目録	昭和57年
矢口文庫目録	昭和60年	内藤文庫目録 CD-ROM版 KUL-bijou	平成11年



39 大坂画壇目録
すべて写真図録による目録
(A4判177ページ)。



40 CD-ROM版内藤文庫目録
(ケースの表)



41 大阪文芸資料目録 (B5判249ページ)



42 同目録の口絵写真は6ページのすべてをカラーで飾っている。

(2) 図書館の出版図書

目録名	刊行年	目録名	刊行年
関西大学図書館報	昭和51～平成7年	同上影印叢書第三卷『勳進能并狂言尽番組』	平成7年
江戸書状(全三巻)	昭和56～58年	同上影印叢書第四卷『近世俳書集』	平成6年
ガイドブック 文献のさがし方から入手まで	昭和62年(初版)～	同上影印叢書第五卷『浮世草子集』	平成9年
関西大学図書館創設80周年記念・関西大学文学部創設70周年記念展示	平成6年	同上影印叢書第六卷『西川祐信集』	平成10年
		同上影印叢書第七卷『青本黒本』	平成9年
関西大学図書館フォーラム(創刊号～)	平成6年～	同上影印叢書第八卷 文学雑誌『葦分船』	平成10年
展示目録 大坂の書と画と本	平成9年	同上影印叢書第九卷『えんぴつ』	平成11年
関西大学図書館影印叢書第一期 第一巻『古今序開書』	平成9年	同上影印叢書第十卷『日本文学報国会・大日本言論報国会設立関係書類』	平成12年
同上影印叢書 第二巻『能面図』	平成8年	関西大学創立120周年記念展示 観覧録大坂画壇の絵画	平成18年



44 『関西大学図書館報 籍苑』の創刊号 昭和51年に創刊し、平成7年の第40号をもって終刊した。



43 関西大学図書館影印叢書のチラシ広告 カタログの他、4種類のチラシが作られた。

(3) 案内パンフレット



45 利用者用パンフレット (昭和43年初版 26ページ)



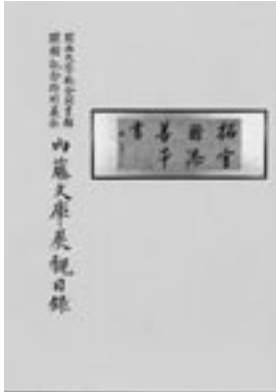
46 新版の利用者用パンフレット 松浦莫章画伯の絵が今でも表紙を飾っている。新版の初版のみ「関西大学」と表記していた(平成8年初版21ページ)。



47 来館者用のパンフレット 昭和61年初版、B5判22ページ。表紙「総合図書館」の字は、[写真24]の表札からとっていた。現在はA4判の改訂3版となっている。

展示のあゆみ—主な記念展示の図録・目録・ポスターなど

* 図書館における展示の経緯や内容については、①関西大学図書館報『籍苑』第34号と35号（平成4年）に掲載の「資料展示小史(一)(二)」、および②小誌『図書館フォーラム』（平成8年創刊～）に掲載している「図書館活動報告」のページを参照のこと。



48 総合図書館開館記念特別展「内藤文庫展覧目録」の表紙 (B5判34ページ 昭和60年4月)



49 「大坂名家自筆稿本百種展覧目録」の表紙 (昭和61年10月～12月)



50 「北條秀司米寿記念劇作展」のポスター



51 「北條秀司米寿記念劇作展」風景 エントラスホール全体が展示場となった(平成2年12月)。



52 関西大学図書館創設80周年記念・文学部創設70周年記念「おおさか文藝書画展」ポスター 横長のポスターもあり、電車の吊り広告ともなっていた(平成6年9月大丸心斎橋店で開催)。



53 多くの来場者をかぞえた(写真は、来場の作家・田辺聖子)



54 「おおさか文藝書画展」の展覧目録の表紙(2000円で頒布した。A4判153ページ)



55 第54回私立大学図書館協会総大会記念展示「大坂画壇—江戸から昭和に至る絵画—展」の展覧目録の表紙(平成5年7月)



56 「いしいひさいち展」 右の写真は、本学が刊行している「大学」の昭和57年～平成10年の間に掲載された「関大番外地」全433作品を収録した冊子(平成10年10月～11月、新関大会館アートギャラリーにて開催した際に配布)。



57 「生誕70周年記念開高健展」展覧目録の表紙(平成12年10月～12月)



58 中村幸彦文庫創設記念展「中村幸彦先生を偲んで」の展覧目録の表紙（平成13年4月～5月）



59 「大阪文藝長沖一展」の展覧目録の表紙（平成15年4月～5月）



60 「関西大学創立120周年記念大坂画壇の絵画展」の展覧目録の表紙（A4判75ページ 平成18年10月～12月）

電子展示



61 電子展示トップページ



62 『伊勢物語』（九段）



63 三都大相撲取組之圖／貞信画

関西大学図書館電子展示室

「ちりめん本」公開しました。

<http://www.lib.kansai-u.ac.jp/etenji/chirimem/index.html>



ちりめん本とは、幾度も揉んだり、伸ばしたりすることによって、縮緬布に似た質感を与えられた和紙であるちりめん紙の上に、欧文と挿絵を印刷した和綴じ本の通称です。日本昔噺を扱ったJapanese fairytale seriesがちりめん本としては最も有名なのですが、今回の電子展示では、あえてそれ以外の多様な資料を選び、公開しております。



左はThe months of Japanese ladies life for 1904という、日本女性の1年を紹介したちりめん本です。他にも、このように欧文と美しい絵とで形作られた趣ある資料を多数公開しておりますので、是非ご覧下さい。

2006.11. 関西大学図書館

64 電子展示「ちりめん本」公開案内

図書館に掲げられていた書画



65 橘作次郎作の大きな油絵「夕映え」
千里山本館2階大閲覧室〔写真6〕の東側に掲げてあった（2020×2650cm 現在は尚文館に保管されている）。



書 物

人は機巧に富みたれば
その撓まざる力もて
機械をつくり物を組
道具をつくり出でけるが
中にも夙く創めにし
書物に勝るはなかりけり
そは現し世の短きを
永久に絶えせぬ命とし
いと狭き國の言の葉に
無限の広さを興えたり

関西大学のために録す
エドモンド・ブランデン
23.1.1950
(堀 正人訳)

66 ブランデン書「Books」

ブランデンが昭和42年2月図書館を訪れ、「閲覧室の学生たちに目をそそぎながら、彼らの激しい情熱と、環境の閑けさ美しさに感動したイギリスの詩人、故エドモンド・ブランデン氏が推敲を重ねた一詩“Books”を献呈された」（第14代館長・名取栄史懷述）。千里山本館2階大閲覧室〔写真6〕西側に掲げてあった（72×50cm 現在は貴重書庫に保管している）。

〔現在も総合図書館に掲げられている書画一覧〕

絵画 「窓の静物」 50号 新藤蕃作	1F	館長室
絵画 WORK 69. 100号 須賀卯夫作	2F	開架カウンター前
絵画 WORK 5. 100号 須賀卯夫作	3F	西廊下壁
絵画 WORK (A) 200号 須賀卯夫作	1F	メインカウンター前壁
絵画 WORK (A) 200号 須賀卯夫作	2F	開架カウンター前壁
絵画 「竹」 谷澤美智子作	1F	第1会議室
絵画 「ポルトガルの風景」 100号 青木一夫作	3F	西廊下壁
絵画 「高松塚古墳壁画」	1F	学術情報事務局長室
絵画 「虹棲む場所」 高澤圭太作	3F	西廊下壁
書 「書を読む」 糸見溪南作	3F	図書館ホール前
絵画 「久さかたの光のどけき」 井手孝作	1F	館長室



67 糸見溪南の書「書を読む」
関西大学120周年に際し図書館ホール前に掲げられた（110×208cm）。

あとがき

写真や資料のなかには、折角収集したにもかかわらず紙幅の関係で掲載を割愛しなければならなかったものもあった。この年譜が再び補完される機会に恵まれれば、後の人たちが追録くださると幸いに思う。

本稿では、掲載する写真のデジタル画像化の処理や原稿の校正などの手間に、同僚の佐々木礼奈さんをわずらわせた。記して、助けてもらったお礼の意を伝えておきたい。

(ふなこし かずひで 図書館事務室)